

授 業 概 要

分 野	統合分野	科目名	看護の探究	担当講師	田中佳代子
実施年次	3 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
科目設定のねらい					
看護者の倫理綱領には、「看護者は研究や実践を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努め、看護学の発展に寄与する。」と述べられており、看護に携わる者は看護研究について学習し、研究に取り組むことが求められている。					
本科目では、臨地実習での事例をケースレポートとして作成することを通して、看護研究の意義とその実際を学ぶ。その過程で、倫理的な思考、客観的な思考、論理的な思考を身につけることをねらいとする。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
4	1. 研究を行なう意義、倫理的配慮を説明することができる	1) 看護研究の目的と意義 2) 看護研究の種類 3) 研究倫理 4) 看護研究プロセス	(1) 看護研究の目的と意義 (2) リサーチクエスト (3) 多様な研究方法 量的・質的研究 (4) 研究倫理(個人情報保護と COI)	講義 グループワーク	
12	2. 研究課題に関する文献検索を行い文献検討・クリティークができる	1) 情報とは 2) 文献とは 3) 文献検索の方法 4) クリティーク	(1) 情報の科学的根拠 (2) 文献の種類 (3) 文献検索の方法 (4) 文献の読み方、クリティーク (5) 著作権	講義・演習	
	3. 研究計画書を作成することができる	1) 研究計画書 2) ケースレポート	(1) 研究計画書とは (2) 研究計画書の書式 (3) ケースレポートの進め方 (4) ケースレポートの書き方	講義・実践	
14	4. 論文としての構成がわかり、まとめ、発表することができる	1) 研究成果をまとめる 2) 研究成果を伝える	(1) 研究結果と考察 (2) 引用文献・参考文献 (3) 推敲と査読 (4) 学会発表など投稿の場 (5) 抄録 (6) 発表形式 (7) プレゼンテーション実践	講義 グループワーク 演習 実践	
テキスト	松本孚・森田夏実 編集 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社 系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ基礎看護学① 看護学概論 医学書院				
参考文献	松葉洋一 ナースのための実践論文講座 人文書院 看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理 日本看護協会出版会 南裕子他 看護における研究 日本看護協会出版会 黒田裕子 看護研究 Step by Step 医学書院 城ヶ端初子 実践に活かす看護理論 19 医学芸術社 南裕子他 看護理論集より高度な看護実践のために 日本看護協会出版会				
評価方法	ケーススタディの論文、発表、課題・授業への取り組み状況				

授 業 概 要

分 野	統合分野	科目名	総合演習	担当講師	和田美穂・谷口留充 全教員
実施年次	3 年次	単位数	1 単位	時間数	45 時間
科目設定のねらい 看護実践力の中核になる看護技術に求められるレベルは、それらの技が実習室や教室において実施できるだけでなく、臨床場面で個別の対象固有の状況に調和した形で遂行できるように身につけている必要がある。本科目では既習の知識をもとに気づきと判断の力を養い、これまで個別に学んだ看護技術を組み合わせて、簡単な状況設定下で展開できるまでのトレーニングを積んで臨地実習の準備とすることや、さらには卒業前により臨床に近い形で、やや複雑な看護課題に取り組み、看護実践能力の習得につなげることをねらいとする。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
18	1. 対象の病態・症状を理解し、看護場面での判断を行う	1) 看護実践能力	1) 対象の健康状態の理解 - 解剖生理・病態生理・症状と治療薬物療法の目的	<実施時期> 4 月 事例演習 個人ワーク グループワーク	
	2. 対象に必要な援助項目の抽出と安全・安楽な看護実践ができる	2) 対象者の病態・症状の判断、場面に必要な援助の判断	2) 疾病理解と看護学の関連 - 症状と看護、治療と看護検査と看護 必要な観察事項		
2	3. 3 年次実習前の看護実践能力について自己の課題を明確にする	3) 安全・安楽・自立・その人らしさを考慮した実践	3) 看護実践能力について	OSCE 実施	
		4) 対象者とのコミュニケーションと援助的人間関係形成	4) 状況に応じた観察・判断		
18	4. 多重課題状況下における看護実践能力について理解できる	1) 状況設定下における看護の展開	5) 事例を通して簡単な状況下での 2 つの組み合わせさせたケアの実施	個人ワーク グループワーク	
			6) 安全・安楽・自立を考えた援助		
2	5. 卒業時到達目標への評価を行い、自己の課題を明確にできる	2) 卒業時到達目標の達成度と自己の明確化	7) 対象者との人間関係形成	OSCE 実施	
			8) リフレクション		
5			1) 看護管理システム 看護の質の管理	個人ワーク グループワーク	
			2) 臨床看護実践能力 臨床推論		
			3) 医療安全とリスクマネジメント	OSCE 実施	
			1) 卒業時看護技術到達度		
			2) 新人看護職員研修ガイドライン到達目標との関連	演習	
評価方法	前期：50 点（筆記試験 19 点、取り組み点 10 点、OSCE21 点） 後期：50 点（筆記試験 15 点、取り組み点 10 点、OSCE25 点） 2 月（技術確認）				